

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、6 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立南多摩中等教育学校

1

次の文章1と文章2を読み、あとの問題に答えなさい。

(*印のついてる言葉には本文のあとに〔注〕があります。)

文章1

この世の中には「悩むこと」をプラスにとらえられる人とマイナスにとらえてしまう人がいます。

もちろん、大多数はマイナスにとらえる人であり、プラスにとらえられる人は圧倒的に少ない。でも、プラスにとらえられる人たちは、自分を成長させるのがものすごく速いのです。一流のアスリートにはたまにそういう人がいるのですが、本当に、通常の2倍速、3倍速というくらいの驚異的なスピードで壁を乗り越えてステップを駆け上がっていきます。

私は、そういう人たちを「悩み方の天才」と呼んでいます。

悩み方の天才は悩みが出現してきたときに、それを嫌だな、厄介だななどと思わずに、これは自分を成長させるための試練なんだと考えます。さらに、この試練を乗り越えた先にはどんなに素晴らしいことが待っているのだろ?といった期待感をくらませる。そして、壁を乗り越えた先にはのかに見える「光」に向かって、まるで突き進んでいくかのように壁を乗り越えていくのです。

おそらく、彼らの頭の中では、「この壁の大きさなら、2週間も悩み抜けば光が見えてくるかもしれない」とか、「今回の悩みの壁は大き

いから、体だけじゃなくて精神的な部分も鍛えなきゃいけない」といったこともつかめているはず。言わば、その悩みの壁のサイズによって、自分が超えるべき試練の大きさも感じ取っているわけですね。

たぶんこれは、長年にわたって多くの壁を乗り越えてきていないと得られない感覚なのでしょう。ただ、このように「この悩みのサイズなら、これくらい悩み抜けばいい」といった感覚がわかっていると、戦略的に悩んで戦略的に壁を越えていけるようになります。すると、「悩みや壁などの負荷」「タイムや順位などの目標」を自分自身でセッティングし、それを乗り越えることで自分の成長を引き出していけるようになるのです。

そして、このように、「自分自身で目標や壁を設定する戦略的な悩み方」ができるようになると、どんどん悩み抜く力をつけて成長し、どんどん壁を乗り越えてステップアップしていけるようになるわけです。

私はこれまで数多くの「悩み方の天才たち」を見てきていますが、もしかすると、こういう「戦略的な悩み方」ができるかどうか、天才と凡人のいちばん大きな分かれ目なのかもしれません。

ただ、わたしたちも、「悩み方の天才たち」に学べるが多々あると思います。なかでもいちばん学ばべきは、悩みを「負」のものではなく、「正」のものと捉えること。これができるようになると、非常に多くのことが変わってきます。きっと、悩み抜くという行為そのものが楽しい作業に思えるようになってくるでしょうし、何よりもみなさん自身が変

わってくる。悩み抜いて壁を乗り越え、壁を乗り越えることに成長して、自分を大きく変えていくことができるのです。

私は、人が変われるか、変われないかは、意志力や才能の問題ではなく、悩み方の問題だと思っています。

悩み方を変えれば、人は変われます。

悩み方を変え、しっかり悩み抜くコツをつかみさえすれば、目の前の壁を越えていける。別に天才じゃなくても、どんどん壁を乗り越え、ステップを駆け上がって自分を変えていくことができます。

(小林弘幸こばやしひろゆき「自律神経*じりつしんけいの名医が教える

すごい『悩み方』の技術」による)

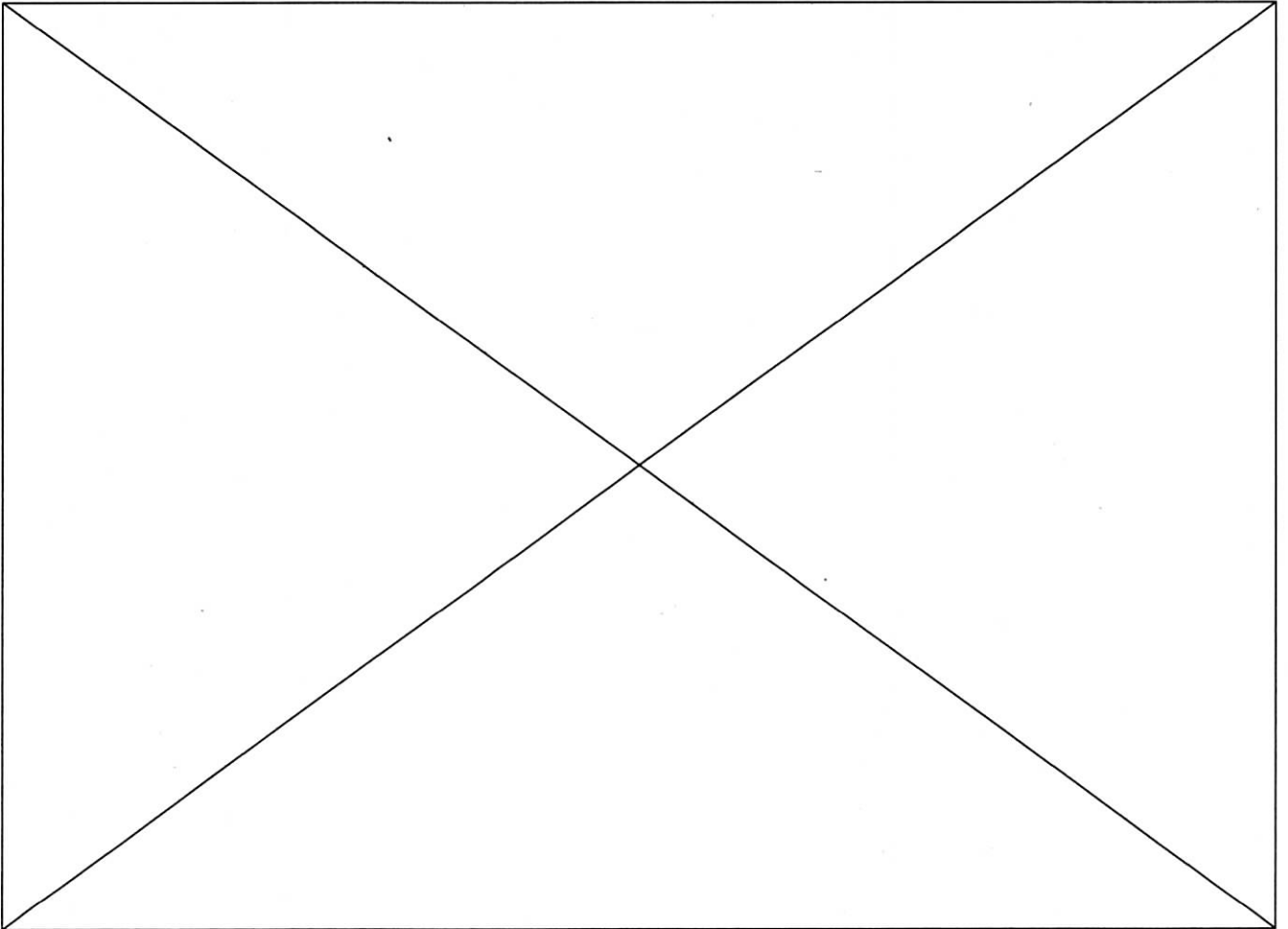
〔注〕

アスリート——運動競技をする人。

負荷ふか——負担ふたんとなる仕事。

自律神経じりつしんけい——意志とは無関係に作用する神経。

掲載できません



〔問題1〕

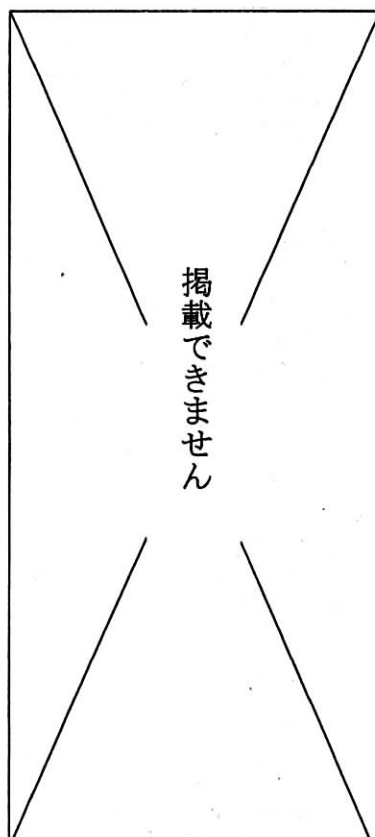
文章1

に、⑦「悩み方の天才」とありますが、文章1の

作者は、「悩み方の天才」とは「悩み」とどのように向き合い、それにどのように対応している人だと考えていますか。三十字以内で説明しなさい。

答えは、一まずめから書き始めること。なお、や・や・や「なども一まずに書き、それぞれ字数に数えます。

〔問題2〕



〔問題3〕

文章1

と文章2

の内容をふまえて、あなたは学校での

活動や日常生活での活動に、どのように取り組もうと考えますか。三百字以上四百字以内で書きなさい。ただし、あとの〔手順〕と〔きまり〕にしたがうこと。

〔手順〕

1 文章1と文章2

の両方の内容をふまえて、あなたが

大切だと考えたことを、理由とともに書く。

2 〔手順〕 1で書いたことが、学校での活動や日常生活の活動でいかなる場面を、具体的に書く。

3 〔手順〕 2で書いた場面で、あなたはどのように取り組もうと考えるか、具体的に書く。

〔きまり〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
かくだんち

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○ や・や・や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの

記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じ
ますめに書きます。(ますめの下に書いてもかまいません。)

○ ・と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「」で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのますめは、字数として数えませんが、